

一般社団法人京都わかくさねっと
活動報告書（令和 6 年度）

私たちは 2016 年の活動開始以来、一貫して「困難な状況にある少女や女性たちの居場所づくり」を軸に取り組んできました。初期より京都 YWCA、京都市青少年活動センター、更生保護関連団体など、さまざまな支援団体と連携しながら、厳しい状況にある一人ひとりに丁寧に向き合ってきました。そうした関わりを通じて培われた信頼と経験は、現在の活動を支える大きな力となっています。

1. 活動の概要

令和 6 年度は、少女の居場所「わかくさリビング」を上京区から左京区に移し、少女たちにとっての安全・安心な空間を提供するとともに、1 階を地域に開かれたコミュニティースペースとして開放し、令和 5 年 10 月より開始した「地域の困りごとを地域で解決するゆるはぶ活動（日本更生保護協会・休眠預金事業）」に加え、「地域における孤独・孤立対策に関する NPO 等の取組モデル事業（NTT データ）」として、少女が主体となって運営に関わるカフェ型の居場所づくりもスタートさせました。

活動を通じて明らかになったのは、「生きづらさ＝孤立」は少女たちだけの課題ではなく、地域全体に共通する問題であるということです。カフェには、生活保護を受ける中高年の男性、障害年金で暮らす高齢者、ひとり親家庭、働きづらさを抱える若者、ひきこもり状態の若者など、さまざまな背景をもつ人たちが訪れるようになりました。彼らは単なる利用者ではなく、他者との関わりを通じて居場所を構成する一員となっていました。

本年度の活動の特徴は、以下の 2 点です。

- ・活動の対象を地域全体へと広げたこと
- ・少女たち自身の「回復」に焦点を当てた取り組みを強化したこと（フェミニズム視点の導入、オープンダイアローグの実践、自主的な活動の支援など）

私たちの考える「回復」とは、「やり直しができること」です。孤独・孤立の解決は制度的処方だけではなく、日常における共感、役割、対話の積み重ねによって実現すると考えています。本事業は、こうした小さな“公共性”＝“社会的処方”を実現するモデルとして、誰一人取り残さない包摂社会のあり方を提起するものです。

1階コミュニティースペースの運営

「いつ来ても誰かがいて、話を聞いてくれる」——そんな排除のない場所を目指しました。

一昨年度秋から実施した「ゆるはぶ事業」（大人こども食堂や月2回のイベント）に加え、令和6年度は「左京区まちづくり活動支援金交付事業」として、隔週月曜日の「わかくさモーニング」、地域住民主体の「ワークショップ」「まちづくりカフェ」などを開催。町内会の会合などにも活用してもらいました。

また、夏以降は「地域における孤独・孤立対策に関するNPO等の取組モデル事業」として、少女たちが企画・運営を担う「夏休みこどもカフェ」「うたごえ喫茶」「絵本の読み聞かせ」などを実施しました。京都市ふるさと納税を活用した「わかくさみんなのギルドプロジェクト」では伝統産業や手作りの魅力に触れる場を提供し、3月には商業施設にて発表の場を設けることができました。年末年始は「京都府生活困窮者支援事業」の補助金を活用し、日常的な食料提供に加え、おせち料理や餅つきなど日本文化を体験できる場を設け、地域の多くの人に来てもらうことができました。

少女支援活動

少女たちのための「わかくさリビング」は建物の2階へと移設し、開所日は「いつ来ても・何をしてもよい場所」として開放しました。これまでの参加者向けに、月1回の「同窓会」も実施しています。

令和6年10月からは君は未知数基金（サントリーホールディングス）の助成事業により、3階の短期シェアハウスを整備。Wi-Fi環境や個別スペースの充実を図り、生きづらさを抱える少女たちが安心して休息できる場となるよう取り組みました。これにより、公的機関や医療・福祉団体からの支援要請も増え、常に誰かが利用する状況となっています。

寄添い支援の活動は、京都市居場所づくり事業、京遊連社会福祉基金、日本NPOセンターなどの助成により運営しました。主に保護観察対象者への寄り添い支援や宿泊援助等に充てました。

HostelNINIROOMでの「わかくさカフェ」は月2回の実施に縮小したものの、短期シェルターとしての需要は継続しています。

10月から募集をはじめたサントリーの助成による「チアーズプロジェクト」では、8名の

少女たちが「やりたいこと」にチャレンジを始め、それぞれの目標に向かって歩み出しました。

外部での活動

上京区での「買い物プロジェクト」や「子ども食堂」への継続的な支援をはじめ、地域や行政が主催するお祭りやイベントにも積極的に参加しました。こうした場では、私たち自身が製作した小物や作品の販売に加え、「グラフィック・ファシリテーション」の手法を活用して活動内容をわかりやすく紹介するなど、地域の方々との対話を深める機会となりました。

また、京都朱雀ライオンズクラブの例会や、日本ソーシャルイノベーション学会の分科会においても、取り組みの紹介や対話の実践を行い、私たちの活動をより広く発信する機会を得ました。

毎年恒例となっている京都YWCAでの着付け支援では、令和6年度は新年会に向けて7名、成人式では2名の着付けを行いました。着付けの場は、単なる技術の提供にとどまらず、少女たちの新たな一步を祝福し、地域とのつながりを実感できる貴重な時間となっています。

研修・他団体との連携

令和6年度の特徴の一つとして、内部における対話と振り返りの時間が格段に増えたことが挙げられます。夜遅くまで及ぶ会議も多く、時には意見の対立もありましたが、それが「居場所には何が必要なのか」「この場所は誰のためのものなのか」といった根本的な問いに向き合い、自らの言葉で表現する機会となりました。

また、拠点を左京区へ移したことで、新たに地域との対話の場が生まれ、地域住民との関係性の構築や、少年院との連携といった取り組みも始まりました。これにより、団体としての在り方や今後の方向性について、改めて見つめ直す契機となりました。

さらに、日本ソーシャルイノベーション学会におけるワークショップ実施や事例発表などの機会を通じて、私たちの活動が「地域の中で必要とされる取り組み」として一定の認識を得る一歩にもなりました。

なお、ホームページの更新や活動報告書の発信は十分に行えなかったものの、Facebookで

の発信は年間 149 件にのぼり、約 6 万件の閲覧数、42,513 件のリーチを記録しました。これは、私たちの活動への関心の高さと、社会との接点の広がりを示すものと受け止めています。

今後の展望

今後は、さらに包摂的な「居場所づくり」を進めていきたいと考えています。誰もが排除されず、誰もが何らかの役割をもてる、そんな場を目指します。それは、支援する／されるという一方向の関係ではなく、ともに生きることを前提とした関係性をつくることもあります。

その実現に向けては、既存のネットワークに加え、少年院や更生保護団体などとの連携をより一層広げていくこと、そしてスタッフ一人ひとりの学びを深めることが必要だと考えています。

また、私たちは「少女を含むすべての人が主体的に生きる」ことを大切にしています。そのためには、自分の気持ちを言葉にし、安心して対等に話せる関係性のなかで、言葉が生まれていく場所が不可欠です。私たちは、こうした「言葉が生まれる場」を育てていきたいと願っています。

そして、これまで以上に私たちの活動を社会に伝えていくことにも力を入れていきます。活動が広く知られることで、共感や協力の輪が広がり、誰もが尊重される社会の実現につながると信じています。

* * *

本年度も、多くの皆さまのご理解とご支援のもと、私たちの活動を継続することができました。少女や女性たちの声なき声に耳を傾け、ともに居場所をつくりあげる日々を支えてくださったすべての方々に、心より感謝申し上げます。

活動に関わってくださった地域の皆さま、協働してくださった支援機関・団体の皆さま、助成・寄付という形で私たちの取り組みを応援してくださった皆さま、そして日々この場に集い、自分の人生を見つめ直しながら歩む少女たちの存在が、私たちに多くの気づきと力を与えてくれました。

今後も、誰一人取り残されることのない社会を目指し、私たちは歩みを止めることなく、現場での実践を積み重ねてまいります。どうか引き続き、ご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

2. 令和6年度の活動について

1. 1階コミュニティースペース運営

- ・大人こども食堂（毎週金曜日）48回 514名
- ・わかくさモーニング（隔週月曜日・4月～2月まで）20回 119名
- ・喫茶軽食（3月より毎週月火水）9回 53名
- ・こどもカフェ（夏休み開放、屋台、ヨーヨーすくい、お月見）11回 42名
- ・生活困窮者支援活動（年末年始、おもちつき、おせち料理、物品、パン等）

2. 主催イベント、勉強会

- ・左京区地域づくり関係…左京住民によるワーク6回 68名、絵本読み聞かせ4回 24名、住民交流1回 14名、うたごえ喫茶2回
- ・フェミニスト講座（勉強会2回、ヨガ教室1回、お香ワークショップ2回）計51名
- ・制作（ハリコ、もち花、和菓子、和ろうそく、お香、紙細工）8回 93名、
- ・勉強会（更生保護、感染症他）8回 78名、
- ・まちづくり関係（まちづくりカフェ3回）計5回 38名
- ・福祉ボードゲーム他

3. 貸会場

- 貸し会場…16回（ヌイヴィトン12回、左京朝カフェ、下京まちづくりカフェ、留学生、カポエイラ交流会）
町内会会場…12回

4. わかくさリビング、わかくさカフェ

- ・わかくさリビング 16回 137名
- ・わかくさカフェ 17回 57名

5. 短期宿泊およびシェアハウス

- ・hostelNINIROOM 宿泊27日、日帰り1日
- ・3階シェアハウス スタッフ：崔（4/1～8/31）、深澤（4/1～）
入所者；少女1（10/27～12/25、他2週間）、DV被害外国人（1/25～3/6）、少女2（3/14～）、ブラジルカポエイラメンバー4名×10日間
他10名 20泊程度

6. 寄添い支援

- ・仮退院者2名（ケース会議、病院同行、警察引取、宿泊管理等）

- ・その他、食事等生活支援、相談、他の施設との協同での支援等

- ・依頼元

保護観察対象者（仮退院）	2名
触法少年（児相および保護司からの紹介	2名
学校からの紹介	2名
他団体（グループホーム等）からの紹介	2名
医院からの依頼	1名
継続的につながっている少女	7名
直接来所／親からの依頼	2名

7. 君は未知数チャレンジ

- ・21歳 少年院の少女に気持ちを届けたい、詩集「贈り物」発行 1000部
- ・21歳姉 街にさまよっている少女を支援に繋げたい、POLA コンテスト
- ・21歳妹 子どもたちを虐待から救いたい、POLA コンテスト
- ・22歳 大学に行って弁護士になりたい、BBS 学習支援
- ・その他フラワーサイコロジー協会から 4名

8. 外部での活動

- ・出店：上京こどもまつり（6/9）、水火天満宮天神夏まつり（8/11）、かもがわデルタフェスティバル（9/15）、左京ふれあいまつり（11/4）、京こども居場所フェスタ（11/24）、洛北阪急スクエア・サスティナブルフェア（3/28-30）
- ・展示：京都市役所前広場展示（6/15）、対話之文化まつり@和順会館（2/9）、社会的処方 EXPO 川崎（3/9）、
- ・活動発表：奏和高校での活動展示（5/24）、左京まちづくり交流会（2/8）
- ・活動参加手伝い：水火天満宮餅つき（12/15）、ライオンズ Xmas パーティー（12/21）、京都YWCA パーティー着付 7名（1/11）、成人式（2名）、小川買物プロジェクト（毎週水曜日）、小川こども食堂（毎月第4土曜日）
- ・日本ソーシャルイノベーション学会ワークショップ開催
- ・朱雀ライオンズクラブ創立記念日活動発表（3/20）
- ・外部研修講師；伊賀市人権講演（12/15）2名
- ・ライオンズクラブわかくさ支部での活動および報告

9. 外部研修参加等

- ・東松ノ木団地しゃばカフェ（2/4）、三重ダルクフォーラム（2/15,16）、女性支援会議@堺市（2/28,3/1）、京都 SCOPE 学習会他

10. メディア

- ・WORK for GOODby greenz WEB 記事 (2024.8.30)
生きづらさを抱える少女が“一個人”として地域とつながる。京都のホステルと支援団体で開く「わかくさカフェ」が、安心できる居場所になれた理由
- ・サントリー“君は未知数”基金 2024 採択団体訪問記 WEB 記事 (2025.1.20)
一緒に過ごす時間が人を動かす。“指導者”も“支援者”もいない「京都わかくさねっと」の居場所づくり
- ・FM87.0 RADIO MIX KYOTO (2024.9.6)
しゃべってもいい しゃべらなくてもいい居場所

11. 発行物

- ・「わかくさだより」vol.5 (2024.4)
- ・イベント案内 (6種)、活動案内 (2種)
- ・Facebook(2024/4/1-2025/3/31)投稿数 149、閲覧数 (2025 年のみ 18744)
リーチ 42513、リアクション 38634

12. 会議等

- ・日本更生保護協会会議 来所 3 回、ZOOM10 回
- ・NTT データシステム 中間発表会、定例会議 7 回
- ・サントリー プレゼン 1 回、全体会議 1 回、中間報告 1 回、会議 2 回
- ・京都市はぐくみネットワーク会議 4 回
- ・社員総会 6/23
- ・理事会 5/26、6/23、9/1
- ・スタッフ会議 30 回